

1-A-4.
工場直送型物流システムの構築

<キッコーマン(株)>

1. 概要

項目	内容
物流共同化のタイプ	同業他社との配送の共同化
主な対象貨物	加工食品
導入時期	1999年1月
月間取扱貨物量	30,000トン/月

2. 背景（実施理由、狙い、導入の経緯）

1) 実施理由

- ・ 物流コストの削減
- ・ 輸配送の効率化
- ・ 在庫量の圧縮
- ・ トラック台数の削減

2) 狙い

- ・ 物流コストダウン
- ・ 在庫削減によるフレッシュローテーション(=CSの向上)

3) 導入の経緯

- ・ それまで全国に27箇所あった在庫型の倉庫を廃止し、TC化を指向。
- ・ 倉庫を管理運営していた既存事業者様に各倉庫をTCに変更することにより、他メーカーとの共同物流を中心とした事業展開をしていただき、それによって各TCの効率を上げる事を前提として、弊社のコストを提案していただく、という形で各事業者様に提案、ご協力をいただく。

⇒この結果、現在は在庫型の倉庫は仙台の1ヵ所まで減。

3. 対策効果

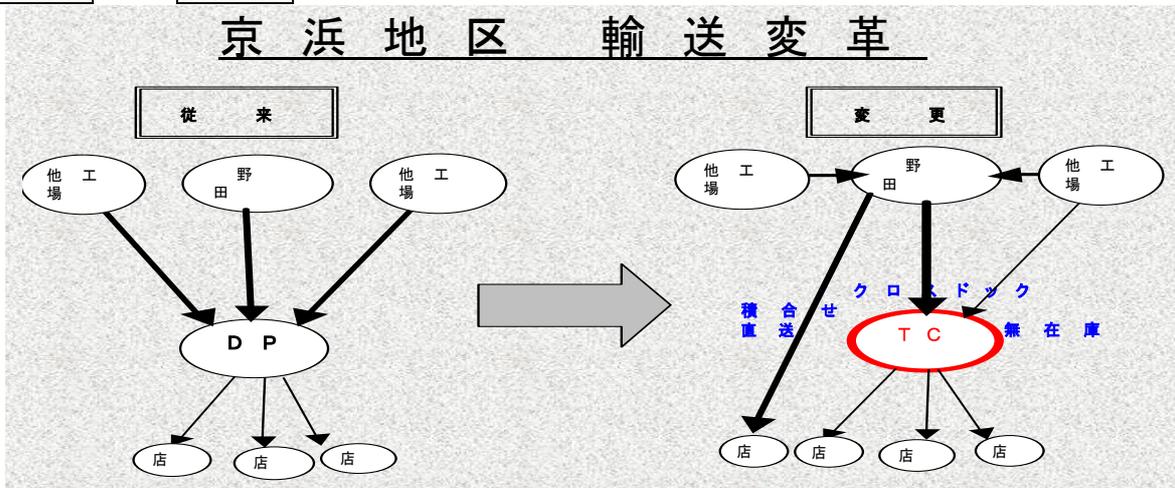
項目	対策効果 (実施前を100とした場合の実施後の数値: 実施後/実施前×100)
輸送コストの対策効果	20
トラック使用台数の対策効果	不明
トラック台キロの対策効果	不明
燃料使用量(又はCO2排出量)の対策効果	不明

- ・ 物流コストダウン
- ・ 在庫削減によるフレッシュローテーション
- ・ ネットワークの簡素化による環境対策
- ・ 未出荷在庫廃棄削減

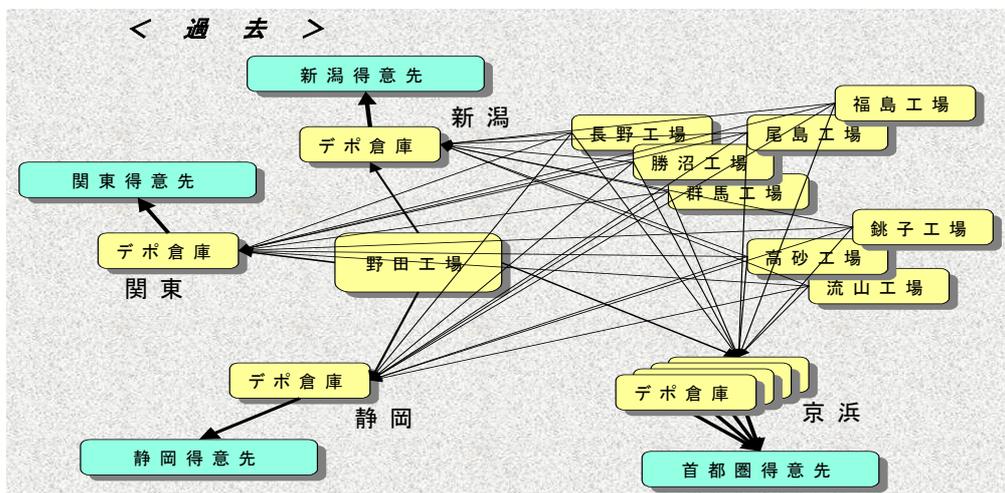
4. 事業内容

対策実施前後の共同物流フロー

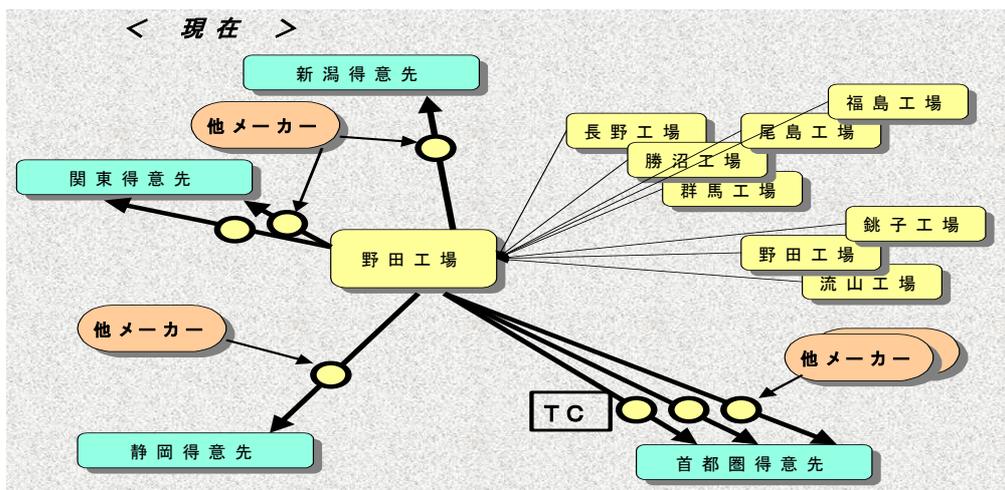
実施前 ⇒ 実施後



実施前



実施後



5. 課題

- ・苦勞した点:既存事業者様の意識改革
- ・課題:ピッキング作業のペーパーレス化